

第8回 定期 総会 報告

(2012年10月26日14時30分～18時)

会 員 総 数：88名 (9月30日現在)

出 席 者 数：17名

委任状提出者数：15名

議長：金岡 隆

出席は現時点で14名、委任状提出者15名。規約13条（会員五分之一にて総会成立）に基づき、本総会は成立しましたので、ただ今からAYF第8回総会を開催します。

1. 会長挨拶（多賀正夫）

本日はお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。昨年の11月に実施しました第6回ツアー、日程が11月末ということで参加が厳しい人もいましたが、無事終わることができました。オプションのラオス観光も好評でした。

この一年間、その他多くの課題に取り組み実行してきました。特にクラウ村の子供たちの絵画展を日本で開催という話が進んでおります。高島屋デパートでの開催に先立ち、来年1月に、渋谷アイビスビル地階のギャラリーでミニ展覧会を実施することが決まっております。活動の新しい方向ということで、しっかり取り組んでいきたいと思っております。

また、富山会の新しい活動の一つとして、富山県カンボジア親善協会の総会（5月18日）に13名が出席しました。その際に、中川先生の講演もあり、同協会のホームステイの受け入れ実施の話も聞きました。我々の活動の参考になればと思います。

富山ではどうしても現地へのツアーが活動の核になります。ツアーの実施を期待しています。

最後になりましたが、会員の喜田照子さんが8月18日に急逝され、淋しくなりました。明るくお元気だった喜田照子さんの気持ちも込めて、今後とも活動を続けていけたらと思います。

これからも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

1. 議事

(1) 2011年度活動報告（山岡直子）・・・別紙参照

中川さんから修復事業の現状、小出さんからクラウ村の青年たちの活動報告、日ごろ子供たちに英語や日本語を教えている4名の先生たちからのメッセージが、別紙に印刷してありますので、合わせてお読みください。

子供たちの絵画展の実施に向けて、6月に、画用紙、絵具などの画材を現地へ郵

送しました。画材の購入、発送すべては金岡さんが担当してくださいました。

- (2) 2011 年度会計報告 (山岡幸代) 別紙参照
 - ・会計監査 (稲垣宏之) から承認の報告があった
- (3) 2012 年度活動案 (山岡直子) 別紙参照
- (4) 2012 年度予算案 (山岡幸代) 別紙参照
 - ・1 \$ = 80 円で換算して予算をたてた。
 - ・前年度は図書を寄贈するタイミングを逸したが、最近はブノンペンの本屋さんには、クメール語の子供図書が売られているようなので、現地調達ということで、購入を依頼する。

以上、承認されました。

(5) 絵画展について (山岡直子・朝内 努)

ツアー交流会で子どもたちが毎年素晴らしい絵を描くようになってきた様子を見て、一昨年ごろから日本で子供たちの絵画展を開いたらどうだろうという話が上がり、ようやく実現への一歩を踏み出しました。

今日は、現地で子供たちの絵画指導をしていただいている笠原先生にも来ていただいています。

先生のご指導で沢山の絵が制作され、その一部が額入のもの 40 点、絵のみで 60 点ほど集まっています。クラウ村の子供たちならではの素晴らしい絵がたくさんあります。これから遺跡の絵も届く予定です。運搬は、額は NPO-IF のメンバー、その他笠原さん、小出さんの知人の方々が帰国の際に運んでくださいました。

絵画展の実施は、来春に高島屋 (本店、新宿店、二子玉川店のいずれか) で、行うということまでは決まっています。11 月 2 日に高島屋の担当の方に、絵を見に来ていただいて、もう少し具体的なことが決まっていくことと思います。詳細は追ってお知らせします。

また、それに先だって、渋谷アイビスビル地階にあるギャラリーで 1 月 12 日～19 日の間、ミニ展覧会を実施します。お知らせのカードができましたら、郵送しますので、皆様のお知り合いの方にご案内ください。

(5) AYF の今後について

AYF 創立から 7 年がたち、第二スパンの 3 年目にはいりました。会員は若干若い方も入会されていますが、そのまま年齢を重ねてきております。今後どのように活動を続けていったらよいか、どんなことでも意見を出していただければと思います。今、何かを決めるということではありません。これから皆様と一緒に考えていけたらいいと思います。

- ・AYFの活動は、中川さんのJSAにおける遺跡修復の仕事に触発されてスタートしたものであるが、今後、JSAの遺跡修復の事業はどのようになっていくのか、気になるところである。
- ・遺跡修復事業はさておき、AYFの活動の趣旨を再確認して、可能な限り長く続けていくべきである。
 - ① カンボジアの子供もたちのより豊かな教育のための物的支援
 - ② 世界遺産アンコール遺跡の修復・保全につながる人材育成
 - ③ カンボジアと日本の草の根レベルでの文化交流
- ・教育の問題は長く継続していかなければ、成果が出るものではないので、継続は必要。ただ、このままの形をそのまま続けることには限界がある。突然、終止符を打つことはできない。われわれの教育支援を長く続けていくための方策を今から考えておいた方がいいのではないか。
- ・ツアーの実施は会員のモチベーションの維持のための基本であるから、年一回のツアーは継続して行ってほしい。
- ・若い人の入会をすすめていきたい。

上記の意見の他いろいろ考えがあると思いますので、折にふれこれからも率直な意見を出していただければと思います。

(6) 第七回ツアー実施について

2/3月頃、7/8月頃、10/11月頃が候補としてあげられる。

絵画展の開催がいつになるかで決まってくる。絵画展の日程の目処がついた時点で決めることとする。

(7) その他

総会に欠席された会員からのご意見、提案を披露させていただきます。

ツアー関係について

- ・レストランでのアトラクションのような民族舞踊ではなく、本物の民俗芸能を見たい。
- ・近くにある小・中学校を訪問して、子供たちがどのように学んでいるのか見学してみたい。高校は無理でしょうか？
 - クラウ村には中学校も高校もありません。中学校については、村に開校できるようチアさんたちが尽力していらっしゃいます。現在、国の認可は下りたようですが、資金がたりないそうです。
- ・子供たちの自宅での生活の様子も見る機会があればいいと思います。
- ・前回、青年たちの活動報告を聞き感心しましたが、その後の様子も発表してほしい。

※ツアー関連のご意見、提案に関しては次回のツアー実施の際に、出来る限りとりいれていければと思います。

会の運営について

- ・若い人が入ってこられるような会になるといいです。しかし、生活にゆとりのある人はいないから難しいですね。
 - 現役世代のたちは、活動に参加する時間的なゆとりがないようです。でも、趣旨を理解していただいて、少しでも多くの方に会員になっていただけるよう、ことあるごとにみんなでアピールしていきたいものです。
- ・「絵画展」早く実施できるようがんばっていきたい。
 - 高島屋での絵画展、ただ今具体的に進行中です。

3. 閉会の辞（長谷川瑞穂）

本日はご多忙のところ第8回AFY総会にご出席頂き、有難うございました。

2011年度の活動報告、決算報告、並びに2012年度の活動予定、ならびに予算案が承認されました。

発足以来、クラウ村の塾の教育支援、ツアーでの子供たちとの交流を中心に順調に活動を行って参りました。子供たちの成長は目をみはるものがあります。本年度は上記の活動に加えて、素晴らしく成長した子供たちの成長の一端を伺い知ることのできる絵画の展覧会を日本で行う企画を計画しております。絵画展にもご協力をお願いいたします。本会がますます発展することを祈願して、閉会の辞とさせていただきます。

以上

2012年11月5日

文責 AYP事務局 山岡直子

出席者：多賀正夫、金岡隆、野村裕子、青木克子、朝内努、畝本紀子、
関野晋、水津幸一、久世基、長谷川健郎、長谷川瑞穂、
岡田寛、山岡直子、山岡幸代、岡田登美枝、盛和子、笠原知子
(会員16名、他1名)